

東山魁夷館コレクション展2024

1990年に開館した東山魁夷館は、画家本人から寄贈された作品に加え、後に収集、寄贈された作品を含めると所蔵点数は970点あまり。2024年度も、《緑響く》や《白馬の森》、《行く秋》など本制作30点あまりを5期に分け、日本の古都を描いた京洛四季や大和春秋の連作、ヨーロッパの自然や街並みを描いた風景シリーズ、白い馬の見える風景や唐招提寺御影堂障壁画の準備作など、自然を深く見つめ、静謐な世界を表現した東山芸術の全容を、制作過程などと併せてご紹介しします。

I期 4/11[木]—6/18[火]

連作「白い馬の見える風景」の起点となった代表作《緑響く》を中心に、オーストリアに取材した《沼の静寂》などを展示します。また、5月6日は東山の命日であることから、絶筆となった《天星》を展示します。



《緑響く》1982年

II期 6/20[木]—9/3[火]

ドイツの町に取材した《窓》、《石の窓》、《静かな町》、連作「白い馬の見える風景」から夏の景色を思わせる《水辺の朝》、《草青む》など、ヨーロッパの風景に取材した作品を中心に展示します。



《静かな町》1971年

III期 9/5[木]—11/12[火]

東山が10年をかけて取り組んだ唐招提寺御影堂障壁画に関連した中国への取材から生まれた《瀟江暮色》、《桂林月夜》、《黄山雨過》を展示します。また、《秋思》、《木枯らし舞う》、《夕紅》など、世界各地の秋の風景を描き出した作品をご紹介します。



《瀟江暮色》(右隻) 1978年

IV期 2025 11/14[木]—2/4[火]

連作「白い馬の見える風景」のうち最大の作品《白馬の森》を中心に、同連作の習作を一挙に展示します。また、冬の厳しい自然を描いた《霧氷の譜》、厳しい冬に耐える樅の若木を描いた《聖夜》などをご紹介します。



《白馬の森》1972年

V期 2025 2/6[木]—4/29[火・祝]

唐招提寺御影堂障壁画第一期で日本の自然を取材する中で生まれた《夕静寂》、長野県の厳しい冬の様相を描き出す《冬の旅》などをご紹介します。冬から暖かな春を迎える自然を描いた《春兆》などを展示します。



《春兆》1982年

観覧料 | 本館・東山魁夷館共通 一般700円、大学生・75歳以上500円
ギャラリートーク | 各日14:00～
5/18[土]、7/20[土]、9/21[土]、11/16[土]、2025.3/15[土]

■ 利用案内

開館時間 9:00～17:00(展示室入場は16:30まで)

休 館 日 毎週水曜日(原則、水曜日が祝日の場合は翌平日)
年末年始(12/28～1/3)

観 覧 料 企画展は、展覧会により料金が異なります
コレクション展(本館・東山魁夷館共通)
一般 700(600)円、大学生及び75歳以上 500(400)円
高校生以下又は18歳未満無料
※ 割引の併用はできません
※ ()内は20名以上の団体割引及び各種割引
※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料
※ 大学生及び75歳以上の方は身分が確認できるものをご提示ください

■ アクセス 長野県立美術館には、一般来館者のための駐車場はありません。併設の東山魁夷館北側の駐車場は、大型バス、障がいのある方など信州パーキング・パーミット制度にて指定の専用駐車場です。一般の方は、公共交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用ください。なお、城山公園駐車場をご利用の場合、観覧券のご提示により、駐車料金の割引があります。

◎公共交通機関

JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、アルピコ交通バス(11系統善光寺経由宇木行／16系統善光寺・若槻団地経由若槻東条行／17系統善光寺・西条経由若槻東条行)で「善光寺北」下車(所要時間約15分)。バス進行方向徒歩約3分。

JR長野駅善光寺口バス乗り場①から善光寺行き「びんずる号」で「善光寺大門」下車(所要時間約13分)、表参道を善光寺本堂方向に歩き、本堂を右方向、城山公園へ徒歩約10分。土日祝日は「城山公園前」下車。

長野電鉄「善光寺下駅」下車、城山公園へ徒歩約15分。



※諸般の事情により、展覧会やイベントの内容などに変更が生じる場合があります。
最新情報については当館ホームページをご確認ください。

NOM 長野県立美術館

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(城山公園内・善光寺東隣)
TEL.026-232-0052 FAX.026-232-0050
https://nagano.art.museum/

最新情報を
チェック!



プラチナパートナー 信濃毎日新聞

MUSEUM CALENDAR

2024.4—2025.3

NOM

長野県立美術館

こどもアートラボ

絵の具や粘土、木材などの身近な素材を用いた月1回のワークショップです。

2024年4月～2025年3月までの
毎月第2土曜日 10:00～15:00頃

対象 | 3歳以上の子どもから大人までどなたでも

※ワークショップの内容は毎月変わります。
※申込み方法や詳しいイベント情報は当館ホームページをご確認ください。



おやこでトーク おとなもトーク

展示室で行う、対話による鑑賞プログラムです。作品をみて感じたことをみんなでおしゃべりしながら楽しみましょう。

2024年5月～2025年3月までの
奇数月第4土曜日

●おやこでトーク 10:00～11:00

対象 | 小学生以下の子どもとその保護者

●おとなもトーク 14:00～15:00

対象 | 中学生以上から大人までどなたでも

※対象の展覧会は毎回変わります。
※申込み方法や詳しいイベント情報は当館ホームページをご確認ください。



■交流展

県内各地域の美術館と共に、双方のコレクションを活用し、協働で企画・立案・実施する展覧会です。地縁ある作家たちの作品を中心に展示し、各館の特色を打ち出すことで、地域の魅力を改めて感じていただくと同時に、学芸員の交流を通じて、県内美術館との連携を深める機会としています。

長野県立美術館交流名品展

交差する諏訪ー風景と人々

諏訪市美術館との共同開催となる本展では、両館のコレクションから諏訪地域を描いた作品や諏訪地域にゆかりのある作家の作品を中心にご紹介します。

2025年2月1日[土]—3月23日[日]

休 館 日 | 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日)

会 場 | 諏訪市美術館

観覧料 | 一般610(500)円

小中学生150(100)円

障がい者150円(介助者1名まで同額) ※ ()内は20名以上の団体割引



矢崎博信《高原の幻影》1938年
諏訪市美術館蔵

■移動展

長野県立美術館のコレクションをより多くの方にご鑑賞いただくため、1979(昭和54)年から県内各地の自治体・施設からの公募により「移動展」を開催しています。2024年度は、飯山市と伊那文化会館を会場にして開催します。

① 2024年度長野県立美術館移動展in飯山

今年度は北信地域の飯山市で開催します。豪雪地帯として知られる飯山ですが、自然豊かな北信地域の風景を描いた秀作の数々や、地元ゆかりの美術家たちの作品をご紹介します。

2024年9月28日[土]—10月13日[日]

休 館 日 | 月曜日 会場 | 飯山市美術館 観覧料 | 無料

② 2024年度長野県立美術館移動展in伊那文

NAMコレクション2024の1期分の内容を、ほぼそのままに伊那文化会館で展示します。2024年度は全5期から構成されるコレクション展のうち、第1期の出品作を中心に展示します。

2024年10月19日[土]—11月17日[日]

休 館 日 | 月曜日 会場 | 長野県伊那文化会館 美術展示ホール

観覧料 | 一般500(400)円、大学生・75歳以上300(200)円、
高校生以下又は18歳未満無料

※ ()内は20名以上の団体割引
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は無料

展示室1	12	25	30	13	16	5	17			1	6											
展示室2	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から 岡鹿之助へ		生誕150年 池上秀畝 高精細画人		ダリ版画展－奇想のイメージ		京都 細見美術館の名品 琳派、若冲、ときめきの日本美術		30 NAMコレクション2024 特集展示		12	信州から考える 絵画表現の50年										
展示室3																						
コレクション展示室	NAM コレクション 2023 第Ⅶ期	23	25	NAMコレクション2024 第Ⅰ期		16	18	NAMコレクション2024 第Ⅱ期		8	10	NAMコレクション2024 第Ⅲ期		17	19	NAMコレクション2024 第Ⅳ期		25	27	NAMコレクション2024 第Ⅴ期		5/6
アートラボ	2023 第Ⅳ期 金箱淳一		14	18	2024 第Ⅰ期 西村陽平		21	27	2024 第Ⅱ期 富長敦也		27	2	2024 第Ⅲ期 ひらくツール		19	25	2024 第Ⅳ期 光島貴之		13			
オープンギャラリー							20	山の画家 足立源一郎		24	5	公開制作vol.4 原田裕規										16
東山魁夷館	2023 第Ⅴ期	9	11	2024 第Ⅰ期		18	20	2024 第Ⅱ期		3	5	2024 第Ⅲ期		12	14	2024 第Ⅳ期		4	6	2024 第Ⅴ期		29

企画展

春陽会誕生100年
それぞれの闘い
岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ

2024.3/16〔土〕—5/12〔日〕※展示替えあり 会場|展示室1・2・3
観覧料|一般800円、大学生・75歳以上600円、高校生以下又は18歳未満無料

春陽会は1922年に、再興院展洋画部から脱退した小杉放菴、山本鼎、森田恒友らと、草土社の岸田劉生らを中心としたメンバーにより、洋画界を代表する第三の団体として発足しました。それぞれの画家の個性を尊重する自由な会風のもと、油彩だけではなく、版画、水墨画、素描、新聞挿画がジャンルの隔てなく出品されます。本展では、日本近代美術史を語る上では欠かせない著名な画家たちに彩られた草創期から、1900年代後半までの約200点をご紹介します。



岡鹿之助
《観測所》1951年
静岡県立美術館蔵

生誕150年
池上秀畝 高精細画人

2024.5/25〔土〕—6/30〔日〕※展示替えあり 会場|展示室1・2・3
観覧料|一般1,000円、大学生・75歳以上700円、高校生以下又は18歳未満無料

池上秀畝(1874-1944)は、現在の長野県伊那市高遠町に生まれ、1916年からは3年連続で文展特選を受賞、帝展で審査員を務めるなど旧派を代表する画家として活躍しました。花鳥画を得意とし、写生に基づく写実的な表現、新しい技法にも積極的に取り組みました。生誕150年を機に、その画業を代表作と共に振り返り、改めてその全体像を探ります。特別展示として昭和天皇の婚礼祝いとして皇室に献上された《国之花》を展示します。



池上秀畝《桃に青鸞図》1928年 オーストラリア大使館蔵



ダリ版画展－奇想のイメージ

2024.7/13〔土〕—9/16〔月・祝〕 会場|展示室1・2・3
観覧料|一般1,400円、大学生1,200円、高校生以下又は18歳未満無料

シュルレアリスムを代表する画家として知られるサルバドール・ダリ(1904-1989)。ダリの才能は油絵のみにとどまらず、版画、彫刻、舞台芸術、映画など幅広い分野に及びました。本展では、1960年代から70年代に精力的に制作した版画を中心に、晩年までの作品約200点をご紹介します。圧倒的な素描力と洞察力をもって生み出された作品群を通して、20世紀最大の奇才といわれるダリの世界をご堪能ください。

サルバドール・ダリ《シュルレアリスムの松葉杖》
(『シュルレアリスムの思い出』より) 1971年
©Salvador Dalí,
Fundació Gala-Salvador Dalí,
JASPAR Tokyo, 2024 E5482



京都 細見美術館の名品
琳派、若冲、ときめきの日本美術

2024.10/5〔土〕—11/17〔日〕

※展示替えあり 会場|展示室1・2・3
観覧料|一般1,400円、大学生1,200円、高校生以下又は18歳未満無料

多彩な日本の美を国内外へ発信し続け、開館25周年を迎えた京都・細見美術館。細見家三代が蒐集した名品の数々は、日本美術史を総覧する幅広い時代とジャンルにわたります。本展では国指定重要文化財を含め、仏画や荘厳具にみる祈りの美、茶の湯の美術、華麗な蒔絵や七宝と風俗画、日本美の象徴・琳派、そして奇想の画家・伊藤若冲など、細見美術館ならではの美の世界をご堪能ください。



伊藤若冲《雪中雄鶏図》江戸中期 細見美術館蔵

NAMコレクション2024
特集展示

2024.11/30〔土〕—2025.1/13〔月・祝〕 会場|展示室2・3

観覧料|本館・東山魁夷館共通
一般700円、大学生・75歳以上500円、高校生以下又は18歳未満無料

長野県立美術館は1966年に財団法人信濃美術館として発足して以来、郷土作家や信州を題材にした風景画を中心にコレクションを形成してきました。特集展示では、当館が掲げるコレクション・ポリシーのうち、「美しい山岳風景や精神文化に通じる作品」と「美術資料群」に焦点を当て、その意義を再考します。



吉田博《有明山》1920年



信州から考える
絵画表現の50年

2025.2/1〔土〕—4/6〔日〕 会場|展示室1・2・3

観覧料|一般1,000円、大学生・75歳以上800円、高校生以下又は18歳未満無料

第二次世界大戦が終結した1945(昭和20)年から、未曾有の大災害が起こり、戦後史の転換期ともいわれる1995年までの50年間。本展では長野県にゆかりある作家、池田満寿夫や草間彌生、辰野登恵子などの作品を迎えることにより、激動の社会の流れに挟まれた50年間に表出した「絵画」という基本的なメディアの変遷を再考します。



辰野登恵子《UNTITLED 91-20》1991年

NAMコレクション2024

菱田春草、荻原碌山ら信州出身の作家や、信州を描いた風景画を中心とする長野県立美術館のコレクション。1年をかけて、洋画・日本画・工芸など、様々なジャンルの収蔵品を展示します。

会場|コレクション展示室

Ⅰ期 4/25〔木〕— 7/16〔火〕

Ⅱ期 7/18〔木〕— 10/8〔火〕

Ⅲ期 10/10〔木〕— 12/17〔火〕

Ⅳ期 12/19〔木〕— 2025.2/25〔火〕

Ⅴ期 2025.2/27〔木〕— 5/6〔火・休〕

観覧料|本館・東山魁夷館共通
一般700円、大学生・75歳以上500円
ギャラリートーク|各日14:00～
6/15〔土〕、8/17〔土〕、10/19〔土〕、12/21〔土〕

菱田春草《乳糜供養》1903年頃



アートラボ2024

観覧料|無料

第Ⅰ期 西村陽平
5/18〔土〕—7/21〔日〕

第Ⅱ期 富長敦也
7/27〔土〕—10/27〔日〕

第Ⅲ期 ひらくツール
11/2〔土〕—2025.1/19〔日〕

第Ⅳ期 光島貴之
2025.1/25〔土〕—4/13〔日〕

視覚以外の感覚もつかった鑑賞が可能な作品を展示する「アートラボ」。誰でも立ち寄り、新たな発見が生まれる場となることを目指しています。触れて、見て、聴いて、アートを楽しんでみませんか。



富長敦也《House》《Ninguen》2003年

オープンギャラリー

観覧料|無料

山の画家 足立源一郎

2024.7/20〔土〕—9/24〔火〕

長野の数多くの山々を描いた足立源一郎(1889-1973)。足立の登山道具やスケッチなどから山岳画家としての姿をご紹介します。



足立源一郎(小山義治撮影 安曇野山岳美術館蔵)

公開制作 vol.4 原田裕規

2024.10/5〔土〕—2025.3/16〔日〕

人間の人間らしさとは何かをテーマに、テクノロジー、リサーチ、パフォーマンスなどを駆使して作品を制作している原田裕規を招へいし、長野の風景表現の歴史を対象とした調査・制作の様子を公開します。



《Home Port》2023年
監督・編集：原田裕規、CGIデザイン・アニメーション：SUNJUNJIE、サウンドデザイン：小松千倫